

青山 勳

「ESDの10年」最終年會合の 開催へ向けて



文部科学省は、昨年9月、2014年に岡山で「ESD最終年會合」を開催することを決定した。岡山は2005年名古屋で開催された「国連大学・ユネスコ国際會議」で、世界6カ国7地域がRCE(ESDに関する地域の拠点 Regional Centre of Expertise on ESD)として世界で最初に認定された地域の一つである。

つまり岡山のESD活動は国際的にも最先端を駆けていたということである。今では認定されたRCEの数は世界で100近い数にまで増えている。岡山市では昨年「ESDの10年最終年會合を実現する会」を設置して、関係団体に呼びかけてきた。その結果岡山ではステークホルダー(関係者)會議が、愛知・名古屋においては閣僚級會議が開催されることが決定されたのである。そして先日、岡山市長を会長として「国連ESDの10年最終年會合岡山実行準備会」が設立された。私はその副会

長の一人としての役割を果たすことが命じられた。

「ESD(Education for Sustainable Development)」とは、既に広く知られるようになったが、「持続可能な発展のための教育」の略号で、環境、エネルギー、人口、貧困、ジェンダー、国際理解など現代社会が抱えている様々な問題を教育によって解決し、新たな価値観の創造や行動を呼び起こそうとする、国際的な、壮大な運動である。現代の私たちが享受している様々な恩恵を未来の人たちも同様に受けられるような社会を目指し、そうした社会を支える人づくりのための学習、教育、行動を起こそうとする一大文化運動であると言える。時代を遡るが、2002年、ヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳會議」で、我が国から「ESDの10年」が提案され、2005年に愛知で開催された「愛・地球博」をキックオフ・イベントとして、その年から2014年までを「国連・ESDの10年」とすることが国連總會で満場一致で決議され、その提案国である日本で標記の會議が開催されることになったのである。この會議には150カ

国から閣僚クラスを含めて1500人以上の人が集まる大國際會議であり、地方自治体にとっては世界に名を知らしめる大イベントである。それ以上にESDの神髓が広く国民に知られることの意義が大きい。

昨年3月東日本は地震、津波、原発事故に伴う放射能汚染と未曾有の大災害を受けた。SD、持続可能な発展を根底から覆す大惨事である。このような災害をESDの観点からどのように考えるべきか、世代間を超える社会的公平性はどうすれば守られるのか、どうして守るべきなのか、地球を救い、人間社会を救い、そして人間自身を救う方法は、ESDとその実践だけではないが、そのツールとしては優れたものであり、一大文化運動として今や全世界に定着しつつある。2014年に開催される最終年會合は、10年間の成果を総括し、さらに次の時代のために新たな一歩を踏み出す道を指し示すものである。今、現代の私たちに課せられているのは、誇りを持って次世代に何を残すのかを論じ、そのために行動することである。ネットワークはそれを追い求めている団体であるといえよう。

青山 勳氏

1942年生まれ
京都市出身
岡山大学社会連携本部・
本部長
(財)おかやま環境ネット
ワーク理事長